

“日本1000万福音化、不可能はない”

純福音東京教会 創立40周年

志垣重政 担任牧師

あまりにも静かで雰囲気がしーんと沈んだ日本の一般的教会とは違ってこの教会の礼拝は熱い。情熱が韓国の教会と比べて劣らない。しかしこの礼拝を導く牧会者は日本人だ。

志垣重政(60) 純福音東京教会担任牧師の話である。チョウ・ヨンギ、ヨイド純福音教会元老牧師の世界宣教の働きを30年以上支えて来た志垣牧師は2014年11月長老から牧師になったと同時に純福音東京教会の担任に就任した。



東京新宿区に位置している教会は日本人が牧会者として立てられることによって韓国人教会でありまた日本人教会となった。リバイバルの速度も一層早くなった。現在主日礼拝の出席聖徒は2000名に至る。福音化率が低い日本では単一教会としては最も多い水準である。ここにとどまらず3000名出席を短期目標として立て伝道に拍車を掛けている。毎週10人余りの新家族聖徒が教会を訪れる。

聖徒の中で韓国人が60%で一番多いが日本人(33%)と中国人(7%)も少なくはない。週報をそれぞれの言語で3つ発行し、主日礼拝の1・3部は韓国語、2部は日本語、5部は中国語でささげられている。中国語礼拝は通訳の助けを受けるが韓国語と日本語は志垣牧師が直接メッセージをする。ごちないところは全くない。すばやく正確な韓国語ではっきりと分かりやすくメッセージを告げる。

純福音東京教会は今年創立40周年を迎えた。4月末開かれた記念聖会に チョウ・ヨンギ元老牧師とイ・ヨンフン、ヨイド純福音教会担任牧師が参席し40周年を祝った。この教会は1977年チョウ牧師が日本で1000万名を福音化するという‘一千万救霊運動’を宣しながらはじまった。40年が過ぎた今、1000万名福音化までの道のりは今もなお遠いけれども、18日、教会で会った志垣牧師は楽観的だった。

“最初はみんな日本で‘一千万救霊’は絶対に無理だと笑っていた。しかし今は私たちではなく日本の牧師たちの口から‘一千万救霊’の話が出てきている。マインドが変わりました。収穫する時が近づいて来たと感じています。今に5000名、1万名の教会を神様にささげようと日本の牧師たちが先を争ってベンチマーキングするはずですが。そうなれば聖霊の火が落ちて瞬時に1000万名となると信じます。必ずそうなります。”

東京でカトリック信者の家庭で育った志垣牧師は、韓国での留学時代に出会った韓国人女性と結婚するまではプロテスタントの信仰とは無縁であった。妻がヨイド純福音教会の聖徒であったため、日本にある純福音教会へ出席するようになった。初めは多少の拒否感があったけれども次第になれるようになった。職場のため東京から大阪へ引っ越しした後、何カ月も経たないうちタイミング良く大阪を訪問したチョウ牧師に出会った。

“韓国へ留学に行き家内に出会ったこと、東京に続けて住まずに大阪へと引っ越したことと、そこで教会に通い3ヶ月でチョウ牧師に出会ったこと、全てが神様の御計画の中でなされたことです。”

志垣牧師は以前25年間長老として勤めながら、2000年設立されたDCEM(David Cho Evangelistic Mission)の事務総長を務めてきた。チョウ牧師の世界宣教を総括する機構だ。彼は牧会者になった後にもDCEM事務総長を兼任し、チョウ牧師の海外聖会に常に同行する。牧会との両立はたやすくはないが一生の使命としている。

志垣牧師は日本一千万救霊の達成可能性を重ねて強調した。“今年だけですでに220名を超える新家族聖徒が登録しましたが、これは日本では奇跡的な数です。神様が道を開いて下さいました。こうして私たちが少しでも前に出て日本の人々に見せることができれば何かがはじまるはずですが。実際日本人に宗教心がないのではありません。いつか燃えると驚くべき働きが起こるはずですが。”

東京=チョン・ジウ記者

mogul@kmib.co.kr